

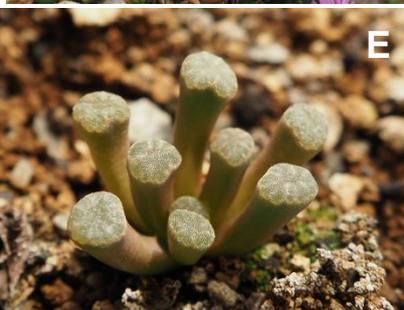
# パオちゃん's EYE

2024年6月1日 発行 No.87

## ハマミズナ科の植物

ハマミズナ科は 1500 種以上からなる被子植物の一グループで、アフリカ大陸南部を中心に分布します。日本には 2 種が自生し、その一つであるツルナ（写真 A）は岡山県の海岸にもよく生えています。また、マツバギク（写真 B）を始めとするアフリカ大陸南部原産の各種が観賞用に栽培され、園芸店や花壇などでその姿を見ることができます。

アフリカ大陸南部に自生するハマミズナ科の植物は、葉が多肉質でとても多様な形をしています。例えばリトープス属（写真 C）は、下半分が融合した分厚い 2 枚の葉を持ちます。コノフィツム属（写真 D）は、葉が融合して一塊になる種があります。フリチア属（E）は、葉の先端が平らで半透明になります。チタノプシス属（写真 H）は、葉に凹凸があり石のような見た目をしています。こうした葉の特徴は、自生地の乾燥した環境に適応したものだと考えられ、植物進化の面白さを感じさせてくれます。



ハマミズナ科の植物: A.ツルナ、B.マツバギク、C.リトープス属の一種(*Lithops dorotheae*)、D.コノフィツム属の一種(*Conophytum flavum*)、E.フリチア属の一種(*Frithia pulchra*)、F.チタノプシス属の一種(*Titanopsis fugo-schlechteri*)

鐵 慎太郎(植物担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」  
は博物館ホームページでカラーで見られるよ!

